

- ♥ 公益社団法人Knots(結び目)は、「人と(ヒト以外の)動物の幸せな共生」をテーマに主に社会教育事業を行っています。
- ♥ Knotsが日頃お世話になっております素敵な皆さまから、メッセージを頂くシリーズです。

「犬と暮らすことで感染症のリスクが減少！」

2017年7月9日

で過ごす犬がまわり

した。

達を助け、より整った免

に、犬と暮らしている

いることで、生後1年

研究チームは、「動物

疫反応をもたらし、感染

家庭で育つ赤ちゃんは、

力が高まる可能性が

との接触が免疫系の発

期間を短縮させるので

感染症や呼吸器疾患に

あるとされています。

猫でも同様の可能

性が示されましたが、

かかるリスクが軽減さ

れる、との調査結果が、

その効果は、犬より弱

いようです。

誌「ペディアトリックス

また、研究によれば、

犬や猫と暮らしている

家庭の赤ちゃんは、せ

(Pediatrics)に掲載さ

れました。

フィンランドのクオ

チームが、生後9〜52

週目の赤ちゃん37人を

対象に行った調査です。

それによると、毎日

ある程度の時間を屋外

ある程度

低く、耳の感染症にか

かる確率も、約半分で

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か



はないか」と推論して
います。

花粉症であるとのデー
タが発表されました。

さらに調査では、感
染リスクの上昇が考え
られる要因(母親によ
る授乳や保育施設の利
用、さらには親の喫煙
や喘息など)を除外し
ても、犬と暮らす家庭
で、育つ赤ちゃんで発
症する確率は著しく減
少し、抗生物質の投与
回数も少なかったと報
告されています。

この数字は10年前か
ら比較して、約10%上
昇したそうです。

24・9%の子供は、
授業など勉強に集中で
きないと、回答していま
す。

海外の実験データに
基づき、また、私が赤ち
んの時からペットと暮ら
して、花粉症がないこと
を考えると、赤ちゃん
の時からペットと暮らす
ことによる、アレルギー
疾患の軽減の可能性を、
ペット関連業界は実証
実験をする価値は大い
にあるのではないかと、
考えています。

2023年末にロー
ト製菓が、日本で
7千131人をイン
ターネットで調査した
ところ、日本の0〜16
歳の子供の42・6%、
小学生のほぼ半数が、

花粉症であるとのデー
タが発表されました。

さらに調査では、感
染リスクの上昇が考え
られる要因(母親によ
る授乳や保育施設の利
用、さらには親の喫煙
や喘息など)を除外し
ても、犬と暮らす家庭
で、育つ赤ちゃんで発
症する確率は著しく減
少し、抗生物質の投与
回数も少なかったと報
告されています。

この数字は10年前か
ら比較して、約10%上
昇したそうです。

24・9%の子供は、
授業など勉強に集中で
きないと、回答していま
す。

海外の実験データに
基づき、また、私が赤ち
んの時からペットと暮ら
して、花粉症がないこと
を考えると、赤ちゃん
の時からペットと暮らす
ことによる、アレルギー
疾患の軽減の可能性を、
ペット関連業界は実証
実験をする価値は大い
にあるのではないかと、
考えています。